

献 辞

このたび藤村幸雄先生の古稀をお祝いして、記念論文集を刊行することになりました。

先生は1933年に香川県高松市にお生まれになり、香川県立高松高等学校を卒業後、東京大学教養学部文科1類に入学されました。その後、同大学経済学部、同大学大学院社会科学研究所応用経済学専門課程に進まれ、1960年に東京大学経済学部助手、1963年に同志社大学経済学部専任講師に就任され、一貫して経済学部教学の発展にご尽力いただきました。この間、大学院委員、大学評議員などの公職も歴任され、大学全体の運営にも積極的に参画されてきました。

先生はドイツを主な対象とした帝国主義論研究で重要な業績を残されただけでなく、世界経済論という視点から歴史的手法も加味されながら、ヨーロッパ、アジア地域の比較研究とその構造分析にも力を尽くされました。それは学会でも高く評価され、1988年からは国際経済学会（のちに日本国際経済学会と改称）の理事を10年間務めておられました。

私が同志社大学に入学した当時の経済学部では1回生にたいして基礎演習という科目が設置されており、私の演習の担当者が藤村先生でした。新入生にたいして、マルクス『経済学批判』の「序言」と「序説」を優しい口調ながら情熱を持って講義されていたことを懐かしく思い出します。今こうして当時の一介の学生が先生の記念論文集に献辞を認めていることに、先生への感謝の気持ちとともに、時代の流れの速さを感じざるを得ません。先生ありがとうございました。

先生はこの3月で定年を迎えられます。同志社大学では先生のご功績に対して、名誉教授の称号を贈ることになりました。先生の今後のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

2003年1月

経済学部長 西 村 卓